

Happy Direct Program

ハッピーダイレクトプログラム

第2章

【幸せになるための2つ目の鍵】

願いがあなたにとって
調度いいか確かめる

こんにちは。常森です。

「幸せになるための5つの鍵-第1章」は
ご覧いただけましたか？

あなたの幸せを引き寄せるために、
この第1章でお話した5つのステップは、
とても大切な部分です。

時間がかかる作業が含まれていますので、
面倒だなと感じたかもしれません。

しかし、
ここでしっかり時間を取らないまま、
次の章に進むことは、
土台を作らずに家を建てるようなものです。

そんな風に建てられた家は、
簡単に壊れたり、倒れたりしてしまうでしょう。

ですから、

最終的に、あなたが望む真の幸せをつかむために、
第1章のステップをすべておこなってから、
この章に進むようにしてください。

繰り返しになりますが、このプログラムは、
ステップに沿って順に進めることで、

あなたの願いが叶いやすくなるよう構成されています。

もし、

「第1章はタイトルだけ見て飛ばしてしまった」

「第1章は読んだけれども、

5つのステップを実際にはやっていない」

というのであれば、

あなたの幸せの土台作りとして、

この章を読み進める前に、

第1章の5つのステップを

ひとつずつやってみてください。

そうすることで、あなたの中に、

幸せを引き寄せる土台が作られ、

あなたの希望が叶いやすくなっていくでしょう。

「第1章」はこちらから

<http://blackthrush.com/vol1/>

では、「第1章」をご覧ください、

5つのステップを

実際にやっていただいたところで、

「幸せになるための5つの鍵」

第2章に入っていきます。

【2番目の鍵】

さあ、いよいよここから、
「幸せになるための5つの鍵」の2つ目に入っていきたいと思います。

1番目の鍵では、
「その願いは、あなたにとって
本当に必要なことなのかを確かめる」
ということを、実際にやっていただきました。

今まで漠然と、
「〇〇だったらいいな」とか
「〇〇が欲しい」
というように考えていたことが、

本当に自分の幸せにつながることなのかについて、
時間をかけて丁寧に考えていただいたと思います。

このステップによって、

あなたの幸せにとって、
本当に必要なものは何なのかということが、
心の深いところで理解できたのではないのでしょうか。

エネルギーを使う必要のないものを手放し、
本当の幸せについてしっかり理解できたあなたには、
次の章に進む準備ができていると思います。

ここで、
5つのステップをおさらいしておきますので、
あなたのなかに、
すっきりしていないところが残っていないか、
確認してくださいね。

まず、
ステップ1では、

今あなたが、思いつくまま、
「こうなりたい」
「こうありたい」
ということを思い浮かべたり、
紙に書き出したりしましたね。

ステップ2では、

ステップ1で出てきた一つひとつの希望について、
あなたが幸せを感じるために、
なければならぬものなのかどうか
時間を作って自分に問いかけ、
確認しました。

ステップ3では、

ステップ2で、あなたの幸せを感じるためになければならないものではないと判断できたものは、手放しました。

ステップ4では、

ステップ3で、手放していないものの中で、もし本当に、そのことが現実になったとして、困ることは一つもないかどうか、確認しました。

そして、ステップ5では、

ステップ4で、将来的に困ることが起きそうなことはここできれいに手放しましたね。

この5つのステップで、

あなたが本当に叶えたい希望が何なのか、

あなたの真の幸せとは何なのか、

そのことが、
あなたのなかで、

はっきりとした形になってきていると思います。

もし、そんな感覚がまだ持てないのでしたら、
今一度、5つのステップに時間をかけてみましょう。

ここで時間をかけておくことが、
最終的な幸せのために、
とても重要になるのですから。

さて、

心の準備はできましたか？

それでは、2番目の鍵に進むことにしましょう。

ここでも、あなたにやっていただきたいことが
ありますので、

第1章と同じように、
しっかり取り組んでいただき、

あなたにとって、
本当に必要な幸せをみつけてください。

それが、あなたが幸せを引き寄せる
2つ目の鍵になります。

一緒に幸せをつかんでいきましょうね。

1. 「願いの大きさがちょうどよくないと 受け取れないことがある」

さて、ここから、
あなたに考えてみてほしいことがあります。

それは、
「あなたの願いの大きさは、あなたにちょうどいいか？」
ということです。



誤解しないでいただきたいのですが、

私は、あなたの願いが、

「分不相応である」とか、
「分をわきまえましょう」とか、
「あなたには不可能です」などと
言うつもりは全くありません。

あなたの願いは、
どんなスケールのものであっても、いいのです。

たとえば、
周囲の人からは、
「そんなのあり得ないよ」
「何、夢みたいなこと言ってるの？」
と言われるようなことであっても、まったく構いません。

ここであなたに考えてもらいたいのは、
願いの内容についてではなく、

その願いをあなた自身が、
「自分にちょうどよい」と感じられているかどうか、

そのことについてなのです。

このことを考えていただくうえで、
実例があるとわかりやすいと思いますので、
ここから私の体験談を、
少しお話ししたいと思います。

私は、十代の頃から占いが好きで、
占星術やタロットカードを学んできました。



それが、だんだん趣味の領域を超えてきて、
会社勤めをしながらでしたが、

月に2回くらい、
日曜日に占い館で占うようになりました。

その当時、
今ほどインターネットが発達していませんでしたが、

占い師の登録サイトができたので、
私もそこに登録してみることにしました。

占術と、占いに対する自分のスタンスなどを書き込んで、名前と連絡先のメールアドレスを登録するだけの、本当に簡単なものです。

すると、登録した翌日に、とある企業から、

「占いサイトをこれから立ち上げたいので、そのメンバーになってほしい」というメールが届きました。

昨日の今日のことだったので、「本当かな？」と、半信半疑でしたが、

電話で話したところ、対応もきちんとしていたので、その会社の担当者に会ってみることにしました。

当時、会社は、赤坂の雑居ビルの中であって、小さな部屋のなかに若い人が数人いるような、

いかにもベンチャー企業といった雰囲気でした。

でも、対応してくれた担当者も信頼できそうな人でしたし、

なんとなく、「これから頑張るぞ！」みたいなエネルギーが感じられたので、

私はその会社と契約して、
メール相談と携帯電話の占いプログラムの原稿執筆を
することになりました。

占いプログラムは、
スタート時にかなりの量を書かなくてはならず、
時間的にもたいへんではあったのですが、



自分の書いたものがプログラムとして配信される
ことを想像すると楽しくもありました。

しばらくすると、

その携帯電話の占いプログラムは、
docomo、au、softbankの
三大キャリアの公式になったので、

とてもたくさんの方に
契約していただけるようになりました。

すると、そのプログラムの売上が、
月1,000万円を超えるまでになったのです。

定期的に占い原稿を執筆することを
続けていたあるとき、

会社の担当者から、
「常森先生、テレビにレギュラー出演しませんか？」
という連絡が入りました。

よく内容を聞いてみると、

「毎週月曜日の朝10時からの生番組の中で、
5分間、『今週の運勢』のコーナーで話してほしい」
ということなのです。



今だったら、二つ返事で、
「はい、はい、やりまーす！！」
と、喜んで引き受けていたと思うのですが、

なんと、そのとき、
私はそのオファーを断ってしまいました。

なぜかというと、
当時、私は会社員でしたから、

毎週月曜日にテレビに生出演するということに、
こんな意味があると考えていたからです。

- ・月曜日の午前中に必ず仕事を休まなければならない
- ・会社が副業を許してくれるかどうかわからない
- ・社長は「占いは嫌い」と公言している人なので許してもらえない

今、これを見ると、
「なんて馬鹿なの！！」と、
自分に突っ込みをいれたいくなりますが、

当時の私には、これらのことは、
とても大きな障害に感じられました。

今になって思えば、

会社は副業を
はっきり禁止していませんでしたし、

社長は「占いが嫌い」とはいつでも、
社員である私がテレビに出ることは会社の宣伝になる
と考える人でもあり、

おそらく、相談すれば「ぜひやってみなさい」と
言ってくれたと思うのです。

しかし、

当時の私には、こんな風に考えることはできず、
このびっくりするような幸運を、
あっけなく手放してしまいました。



そうです。

あの時の私の心のなかには
「有名占い師になりたい」
という願いがあったはずなのに、

その願いの大きさが、
自分にとって「ちょうどよい」ものでなかったために、

やってきた幸運を
受け取ることができなかつたのです。

当時の私にとって、
ちょうどよかったのは、

- ・ 占い師としてインターネット上では少し名前が出ること
- ・ 会社に知られずに占い原稿を書いていること
- ・ 占い館でのお客様への占いを楽しんでやっていること

だから、

ネットに登録した翌日に連絡があった、
ベンチャー企業からの原稿執筆については、
しっかりと受け取ることができました。

でも、

「テレビにレギュラー出演する」

ということは、
私の願いにつながる大きな幸運だったはずなのに、

当時の私には大きさが合わなかったために、
受け取ることができなかったのです。

あなたも、

「チャンスの神様には前髪しかない」
という言葉聞いたことがあるんじゃないかと思います。

神様の前髪をつかまないと、
通り過ぎてからでは間に合わない、
ということですよね。

これは、せっかく訪れた
目の前の幸運を見逃してしまうことを
意味しています。

私の体験も、まさしく
そういうことだったのです。

ですから、

あなたも、あなたの願いについて、
心の底から、

「この願いこそ、私にちょうどいい」

と感じていなければ、

それがかなうような幸運が目の前にやってきても、
受け取れないことがある。

そのことを、よくわかっておいて、
いただきたいと思います。

2. 「ちょうどいい願いなら、 受け取るのは簡単」

ではここからは、
幸運を受け取ることができた例を
お話ししたいと思います。

私は会社員をしながら、
占い原稿を書いていたわけですが、

この原稿執筆の仕事は、
確実に私自身の「書く」スキルを育ててくれました。

そのため、占いに関わることをはじめ、

会社の業務のなかでも、
「書く仕事」は、私のなかで、
少しずつボリュームアップしていくことになりました。

あるとき、
会社で資格試験の参考書制作の企画が持ち上がり、
私は、その担当者になりました。

参考書が出版されて、
しばらくたったある日、
商工会議所から会社に連絡があり、

「商工会議所の資格試験について、
〇〇新聞で特集記事が組まれるので、
原稿を書いてくれませんか？」
というのです。



大手の新聞社ですし、
記事原稿は、かなりボリュームがあり、

私は一瞬、
「大丈夫かな？」と怯みました。

でも、
相手は、それまでの私の仕事を見て
依頼してくれています。

「ここは、頑張りどころだ！」

そんな風に考えて、
私はその仕事を引き受けました。

記事は無事に掲載され、
会社名と私の名前も載ったので、
しばらくは、これが会社の宣伝にもなりました。

このことでわかるのは、

自分の責任で記事を書くことの怖さと、
自分の名前で文章が新聞に掲載されることの喜びが、
ちょうど釣り合っていた、

つまり、自分の願いの大きさに
合っていたために、

この執筆依頼という幸運を

簡単に受け取ることができたということです。

せっかく、幸運が目の前にあっても、

そのことがもたらす未来に対しての、

怖さや障害が勝ってしまうと、

それを受け取ることができなくなってしまいます。

ですから、

「願いの大きさは、ちょうどいいか」

そのことを、

よく確認しておく必要があるのです。

3. 「ちょうどいいか」は、 どのように考えればいいのか

それでは、

あなた自身の願いについて

確認していただく前に、

ちょっと例題を考えて、
練習してみましょう。

お金持ちになりたいという願いは、
多くの人に共通するものだと思います。

億万長者でなくても、
生活に不自由のないお金が欲しい
と思うのは、普通のことですね。

ですから、

誰でも一度くらい、
「宝くじが当たったら」
と考えたことがあるのではないかと思います。

そこで、ここからは、
「宝くじ」を練習課題にしてみたいと思います。



宝くじと言っても、
いろんな金額がありますね。

年末ジャンボで3億円とか、
BIGで6億円とか、
そんな賞金があったと思いますが、

今回は、

6億円で考えてみましょう。

6億円の賞金が、
今、あなたに当たりました。

あなたは、この6億円をどう使いますか？

「とりあえず貯金」というのは、
今回は「なし」です。

というのも、とりあえず貯金という感覚は、
何に使ったかわからない使い途に、
散財してしまう可能性が一番高いからです。

さあ、
よく考えてみましょう。

具体的に金額を出して考えていきます。

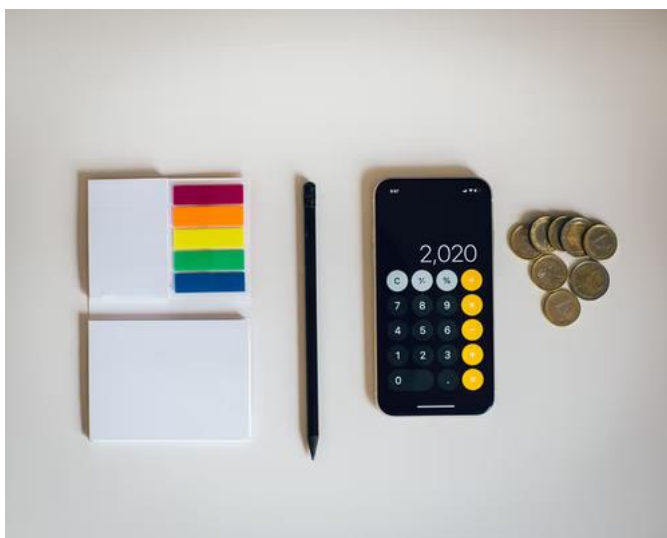
あなたがどうしても欲しいと考えていたもの、

あなたの幸せにつながると思えるものが、
いくらなのか、しっかり金額をあげてみてください。

そして、

6億円を使い切るまで、
何に使うか、考えてほしいのです。

仮に生活費に使うにしても、
しっかりと月々いくらかかるのか、
詳細に金額を計算してみましょう。



ここで、20分ほど時間を取って、
よく考えてみてください。

そして、使い途と金額を
詳しくメモしてみましょう。

先ほども言いましたが、
いくらか貯金に回すというのはなしです。

全部、使い途を考えてください。

さあ、ここから20分間、
あなたの考えをまとめましょう。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

さあ、考えがまとまったでしょうか？

6億円は、1円も残さず
使い途があったでしょうか？

もし、本当に1円も残さずに
使い途を思い浮かべることができたなら、

あなたには、6億円が
本当に必要なのだということです。

ただ、その使い途の内容が、
「あればいいな」
くらいのもものでは、弱いのです。

「どうしてもなくてははいけない」
そういった使い途ならば、

あなたに、6億円は
大きすぎない金額だと言えるでしょう。

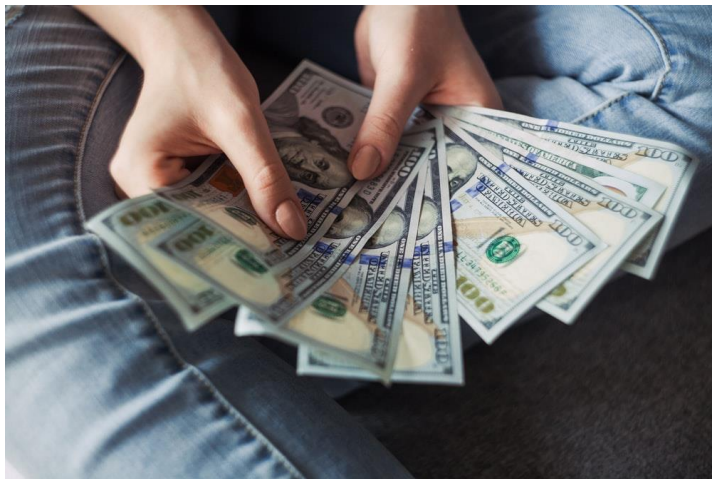
しかし、

最初は、すらすら思い浮かべられても、
途中から、ちょっと使い途に悩んでしまったなら、

あなたに6億円は必要ないかもしれません。

だって、考えてもみてください。

年収500万円で、
20歳から60歳まで40年間働いても、
生涯収入は2億円です。



6億円と言ったら、
普通の人が3回生まれ変わっても、
生活に困らないくらいの
そんな金額なのです。

あなたが本当に必要なお金は、
6億円でなくてもいいのではありませんか？

では、さらに考えてみましょう。

3億円あればいいでしょうか？

それとも、
1億円でも十分でしょうか？

いやいや、
3,000万円でもいいかもしれません。

金額が、
「自分にちょうどよくなる」まで、
しっかりと考えてください。

そして、

「ああ、これがちょうどいい金額だ」

そんな風に思えたら、

それが、

「あなたが受け取る準備ができている金額」

だということができます。

無理して大きな金額にする必要はありません。

なぜなら、
「ちょうどいい」
という感覚が出てこない限り、

あなたはお金を受け取れないか、

仮に受け取っても、
無駄に使い果たして身を滅ぼすか、

そのどちらかになってしまうからです。

ここで、答えをしっかりと
導き出しておくことによって、

今からは想像もつかない、
驚くような方法で、

あなたに必要なお金が
もたらされることになるでしょう。

4. 「ちょうどいい家」 を考えてみましょう

お金がほしい理由の一つに、
「家が欲しい」ということがあります。

実は、私は今の家に引っ越す以前に、
家を購入するためのお金のことを考えるのではなく、

欲しい家の間取りについて、
ずっと考えていました。

最初は、
きれいなモデルルームや、
外国のインテリア写真のような部屋を
イメージしていました。



しかし、

そのような大きな家に住んだとしたら、
光熱費がいくらで、維持費がいくらで…
というように、

家以外のところでお金が出ていくことに、
気が取られるようになってきました。

そのうちに、

自分がある程度満足できて、
維持費もまかなえるのは、

どういう家なのかなと
考え始めるようになりました。

どのくらいの間取りで、
どのくらいの広さの家なら、
ちょうどいいのか。

そのことに集中するようになったのです。

この時、購入資金のことは考えませんでした。

お金のことを全くイメージしていなかった
からかもしれませんが、

さまざまな偶然が重なった結果、
私は1円も払わずに家を手に入れることになりました。

間取りは、まったくイメージした通りです。

ただし、築年数が古く、
庭に大きな木や植物がたくさんあり、

かなり手間のかかる家でした。

でも、
その家のおかげで、

今では季節ごとに咲く花や、
さくらんぼや栗などの実りを楽しみ、
小鳥の訪れをながめながら、
日々をのんびり暮らすことができています。

お金のことを考えなくても、
家を手に入れることはできる。

そんな実例として、
このことを考え直すと、

「住みたい家を、
具体的にイメージすること」

それは、憧れや理想ということよりも、

あなた自身に「ちょうどいいか」どうかが、
最も重要なのだということを、
理解していただきたいと思います。

あなたが、今、
家が欲しいならば、

本当に、あなたにとって
ちょうどいい家とはどんな家か？

そのことを、よく考えてください。

「あなたにとって、ちょうどいい家」

それがイメージできたとき、

その家は、きっと、
ごくごく自然に、
あなたのものになるでしょう。

5. 「第1章で導かれた願いは、 あなたにとって ちょうどいいものか」

ここまでで、「願いがちょうどいいか」ということの
大切さをわかっていただけたと思います。

そこで、第1章で導かれたあなたの願い、
そのひとつひとつに、

「ちょうどいいか」と
問いかけるワークをやってみましょう。

第1章の5つのステップで、
あなたが本当に幸せになるために必要なこと、
あなたが真に幸せになるための願いが、
確認できていると思います。

ここでは、
その願いについて、

それが今のあなたにとって、
「ちょうどいいか」を
確かめてほしいのです。

今まで、お金や家を例題にしてきましたので、
願いの「大きさ」に注目して、
金額や家の間取りなどを考えてきましたが、

願いによっては、
そのような尺度では測れないこともあるでしょう。

そういう場合は、こんな風に考えてみてください。

あなたのなかにある、

あなたの真の幸せにつながる願いが、
今ここで、現実のものとなったとしたら、

あなたは、
何の疑いも持たず、躊躇することなく、
それを受け取ることができるでしょうか？

これは、言い換えれば、

願いの実現を受け取る準備ができているかどうか、
もっと強い言葉で言えば、
覚悟ができているかどうか、
ということなのです。

受け取る準備ができていなければ、
受け取る覚悟ができていなければ、

私たちは、目の前に舞い降りた幸運を
手放してしまうことさえあります。

だからこそ、このワークを
していただきたいと思うのです。

ではここで、

あなたの願いについて、

・それがあなたにとって「ちょうどいい」と感じられるか

・受け取る覚悟ができていると感じられるか

10分間、しっかりと感じていってください。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

さあ、

あなたの願いは、
あなたにとって「ちょうどいい」ものだったでしょうか？

もし、どこかに違和感が残るなら、

自分にとって「ちょうどいい」状態とは、
どんな状態なのか、
さらに、時間をとって感じていってください。

そして、

「ああ、これが私にとってちょうどいいな」
と感ずることができたら、

その感覚を、よく味わって、
覚えておくようにしてくださいね。

まとめ

第2章では、
2番目の鍵として、

「あなたの願いが、あなたにとってちょうどいいか」
「あなたは、願いを受け取る準備ができているか」

ということを確認していただきました。

ワークとしても時間を取りましたが、

これは、日常生活の中でも、
引き続き、考え続けていただきたいのです。

- ・ちょうどいい「金額」について
- ・ちょうどいい「家」について
- ・ちょうどいい「願い」について

あなたの願いの内容の
「ちょうどいい」大きさがわかるまで、

そして、

「願いを受け取る覚悟ができている」
と、あなたが感じられるようになるまで、

ぜひ、考え続けてください。

これは、
乗り物に乗りながらとか、
何か作業をしながらとか、

何気なく、考えていただくのもいいのです。

ふとした瞬間に、
「ちょうどいい」という感じが、
あなたの中に、形となってくると思います。

そうすることで、
本当の意味での「引き寄せ」が、
少しずつ起こり始めます。

そして、引き寄せたものを
容易に受け取ることができます。

まだまだ、声によるリードも、
お伝えしていない段階ですが、

実は、

この段階でも、

すでに、幸せを引き寄せるといふことの意味が、
実感していただけるような体験が、
起こっていく可能性があるのです。

そのためにも、

今回の

「ちょうどいいか」確認する、

「受け取る準備ができているか」確認する、

この作業を大切にしてくださいね。

一緒に幸せを引き寄せていきましょう。

【疑問や不安にお答えします】

ここまでで、わからないことや
不安に思うことがあったら、

下記の問い合わせフォームから
問い合わせてください。

不安を抱えたままいると、
その不安が何度も何度も頭の中に現れ、
あなたの大切な思考を占領してしまいます。

そして、マイナスの波動にさらされることにもなります。
ですから、

「こんなこと聞いていいのかな？」
と思うことでもいいので、

わからないことや不安に感じることがあったら
すぐにご相談ください。

私は、いつでもあなたの隣にいます。

問い合わせはこちらからどうぞ。

<https://black-thrush.com/shitsumon/>

最後までお読みいただきありがとうございます。

幸せは、もうすぐです。

常森さつき